

初中級学習者に対する漢字指導の一試案

— 補講「漢字Ⅱ」クラスにおける授業報告 —

加納 千恵子

要 旨

外国人の初級日本語学習者に対する漢字指導に関しては、特に非漢字圏の学習者のために、字形認識の訓練、部首や音符などの構成要素への分析、字形と意味や読みを関連づけて記憶することを助ける唱え言葉やストーリーの利用など、近年は様々な試みが報告されている。また、中上級の漢字指導においては、漢字語彙の構造や文脈における用法をマスターすることの重要性が指摘されている。しかし、初級から中上級へ進む間には、実際にはかなり大きなギャップが存在しており、その間の橋渡しの段階の指導については、まだあまり言及されていない。本論文では、筑波大学留学生センターの補講コースにおける技能別漢字クラスに新設された「初中級レベル」の授業（「漢字Ⅱ」）での取り組みを報告し、その事前、事後に行った漢字学習に関するアンケート調査の結果と合わせて、このレベルでの漢字指導のあり方を検討する。

【キーワード】 漢字指導 構成要素 初中級レベル 漢字学習の方法

A Study on Teaching Kanji to Introductory-Intermediate Level Learners: a report of skill training “Kanji Ⅱ” class

Kano, Chieko

Recently various ways of teaching Kanji, including pattern recognition practice, analysis of structural elements such as radicals, phonetic markers, etc., and mnemonic devices, such as using verses or stories, etc., to connect kanji shape with meaning and reading, have been proposed for foreign learners of the beginners' level. For teaching learners of the intermediate and advanced levels, the importance of mastering the structure of Kanji compound words and their usages in context has been pointed out. However, there exists a big gap between the beginners' level and intermediate/advanced levels, and it is still not clear how to teach Kanji effectively at the introductory-intermediate level. In this paper the author reports some trials in the “Kanji Ⅱ” class (introductory-intermediate level) and discusses Kanji teaching methods at this level, referring to the results of two questionnaire surveys on learning strategies.

1. はじめに

外国人の初級日本語学習者に対する漢字指導に関しては、特に非漢字圏の学習者を対象として、字形認識の訓練をする必要性を論じたり（トリーニ，1992、高木，1993）、部首や音符などの構成要素に分析することによって体系的な漢字学習を目指したり（Pye, 1984、トリーニ，1992、武部，1993、Foerster & Tamura, 1994）、漢字の字形を意味や読みと関連づけて覚えさせることによって記憶を助ける唱え言葉（酒井，1994）や創作ストーリー（Heisig, 1977）の利用など、近年は様々な試みが提案されるようになってきた。また、中上級の漢字指導においては、漢字語彙の構造や文脈における用法をマスターすることの重要性（加納，1994）が指摘されている。

しかし、初級から中上級へ進む間には、依然としてかなり大きなギャップが存在しており、その間の橋渡しの段階の指導については、まだまだ言及されていない。本論文では、筑波大学留学生センターの補講コースにおける技能別漢字クラスに新設された「初中級レベル」の授業（「漢字Ⅱ」と呼ばれる⁽¹⁾）での取り組みを報告し、その事前、事後に行った漢字の学習方法に関するアンケート調査の結果と合わせて、このレベルでの漢字指導のあり方を検討する。

2. 「初中級」における漢字学習

まず「初中級」というレベルを定義しておきたい。ここでいう「初中級学習者」というのは、日本語の初級文法の学習を一応終わり中級文法の学習を始めようとしている⁽²⁾が、漢字に関しては、まだ初級漢字300字程度⁽³⁾の習得段階にある学習者を指す。1996年度前期の筑波大学留学生センターの日本語補講コースにおいては、「漢字Ⅱ」クラスがそのレベルに当たる。今期、このクラスに在籍した留学生は、23名であった。

表1 1996年前期「漢字Ⅱ」クラスの学習者

出身	中国・台湾	韓国	非漢字圏	合計
人数	10名	4名	9名	23名

これら23名の学習者にコース授業開始時に行ったアンケート調査⁽⁴⁾の中から、既習漢字数、日本語学習期間、漢字の学習方法に関する項目の結果を報告し、このレベルにおける漢字学習の実態を探ってみたい。この時点での彼らの既習漢字数は表2のようであったが、もちろんこの数字は自己申告によるものであり、それだけの数の漢字を学習したからといって、そのまま習得されているとは限らない。しかし、当センターのプレースメントテストによって300字程度の漢字の読み書きができる学習者と判定されたといっても、300字を学習してその全部の習得に成功した学習者なのか、500字を学習したうちの300字が使えるようになっている学習者なのか、1000字以上学習したにもかかわらず300字しか残っていない学習者なのか、というバックグラウンド情報は、学習者の特性に

応じた指導をする上で重要と思われる。

表2 1996年前期「漢字Ⅱ」クラスの既習漢字数

出身 字数	中国・台湾	韓 国	非漢字圏	合 計
100字		1名		1名
200字	2名			2名
300字	1名	3名	3名	4名
400字				
500字	5名		5名	10名
600字			1名	1名
その他 ⁽⁵⁾	2名			2名
計	10名	4名	9名	23名
平均字数	400字	250字	450字	390字

平均的にみると、特に韓国の学習者は比較的既習漢字数が少なく、漢字習得が効率よく行われていることがわかる。非漢字圏（カナダ1、アメリカ2、オーストラリア1、インド1、バングラデシュ1、タイ1、ブラジル1、シリア1）では、平均既習漢字数が多く、かなり習得に苦勞していると思われる。

また、日本語の学習期間について聞いた結果は、表3のようになっている。

表3 1996年前期「漢字Ⅱ」クラスの日本語学習期間

出身 期間	中国・台湾	韓 国	非漢字圏	合 計
半年以下	1名	1名		2名
半年	6名	2名	3名	11名
1年		1名	1名	2名
1年半	1名		2名	3名
2年			1名	1名
3年	1名		2名	3名
その他	1名			1名
計	10名	4名	9名	23名
平均期間	1年未満	半年余り	1年半	1年

やはり非漢字圏学習者が平均1年半と、最も学習期間が長く、韓国の学習者が平均半年余りと、最も学習期間が短い。しかし、クラス全体としては、出身に関わらず半年程度の既習者が約半数を占めていることがわかる。

さらにアンケートでは、漢字学習の方法に関して、表4の1～9までの9つの選択肢⁽⁶⁾に対して、漢字を勉強した際に使った方法にいくつでも○をつけるように、特によいと思ったものには◎をつけるように指示した。

表4 1996年前期「漢字Ⅱ」クラスにおける漢字学習方法

出身 学習方法	中国・台湾	韓 国	非漢字圏	合 計
1. テキスト順	○○○○○	○	○○◎	9
2. 部首の整理	○	◎	○○	5
3. 辞書を調べる	○○○○○	○	○○○○○○○	12
4. ノートに整理	○○○○○	○○◎	◎	9
5. 字源・覚え話	◎	○	○○	4
6. 熟語・例文と	○○◎	○	◎○	6
7. 何回も書く	○○○○○	○○○	○○○○○	13
8. 何回も読む	○○○○○	○○	○○	8
9. カード等工夫	◎		○○○	4
計	29	14	27	70
一人平均	2.9	3.5	3.0	3.0

全体では、「7. 何回も手で書いて覚える」(13人)、「3. 読んでいる文章に知らない漢字があったら辞書を引いて覚える」(12人)が最も多く、「4. 習った漢字や調べた漢字を自分のノートに整理して覚える」(9人)、「8. 何回も読んで覚える」(8人)が続いている。「1. テキストに出てくる順番に覚える」という学習者も多かったが、実際に学習に使用したテキストが『Basic Kanji Book』(凡人社)のように漢字専用テキストである場合と、『新日本語の基礎』(海外技術者研修協会)のように漢字の学習配列に特に配慮していない日本語テキストである場合とがあり、必ずしも同一の方法とは言えないので考察からは除く。

総じて、学習方法には出身別の違いはあまり見られなかったが、一人が使っていると意識している学習方法の数は、韓国の学習者が平均3.5と最も多く、中国・台湾の学習者は少なかった。非漢字圏学習者の方が学習方法にいろいろ工夫をしているのではないかと予想していたが、今回の調査では思ったほど差が出なかった。

3. 「漢字Ⅱ」の授業内容とその評価

初中級レベルと考えられる「漢字Ⅱ」クラスの学習者のほとんどは、初級の文法項目を復習・整理しながら中級レベルの文型文法を学習する「文型文法Ⅰ」および「文型文法Ⅱ」のクラスを同時に履修していたので、そこで使われているプリント教材テキストに出てくる順番に、重要と思われる漢字熟語を取り出して、漢字学習用の教材を作成した。初中級レベルで最も多用されていると思われる学習方法として、「読んでいる文章に知らない漢字があったら辞書を引いて覚える」に注目し、日本人が漢字を辞書で調べる際によく用いているストラテジー「未知の漢字であっても、形声文字の音符の知識を利用してその音読みを類推し、漢字辞典の音索引を使って調べる。」や「その漢字が最もよく使われている熟語を思い出し、国語辞典でその表記を調べる。」などに役立つ訓練をすることを試みた。さらに、そのようにして習った漢字や調べた漢字を「自分のノートに整理して覚える」ことを奨励した。「何回も手で書いて覚える」ことができるように、漢字の書き方のモデルも示したが、すでに初級ではないことから、1画ずつの筆順を示すのではなく、構成要素単位で書く順番を示すことにした⁽⁷⁾。

「漢字Ⅱ」の教材の各課では、具体的に次の1～12までのような指導項目を立て、練習を行った。

第1課 漢字の仲間

1. 初級で学習した漢字語を使って、対になる意味の語を見つける練習

例 白 ↔ (黒)
悪い ↔ ()
入る ↔ ()
賛成 ↔ ()

2. 初級で学習した漢字語を使って、同じような仲間の語を見つける練習

例 春 夏 秋 (冬)
強い、長い 重い ()
中学 高校 大学 ()

3. 部首による仲間の漢字を見つけて書く練習

例 イの仲間：

何	□	□	□	□
---	---	---	---	---

(人) person
なに シン(じる)

第2課 漢字の音訓

4. 漢字に送りがなをつける練習

例 遊 (ぶ)

話 ()

忙 ()

高 ()

静 ()

5. 訓読みと音読みを関連づけて覚える練習

例 見る → 見学

置く → 位置

高い → 高価な

第3課 漢字熟語の構造

6. 漢字熟語を意味の単位に切る練習

例 自己紹介文 → (自己／紹介) 文

最重要項目 → (最／重要) 項目

無回答者数 → ((無／回答) 者) 数

7. 接頭辞や接尾辞の使い方を意識させる練習

有名	↔	(無) 名	安心	↔	() 安
有効	↔	() 効	幸福	↔	() 幸
意味	↔	() 意味	必要	↔	() 必要
関心	↔	() 関心	自然	↔	() 自然

第4課 漢字熟語の用法

8. 「する」をつけて動詞として使えるものを選び、文を作る練習

例 { 結果 ○結婚 結論 } → 田中さんと結婚する

{ 回答 回数 回復 } →

{ 情報 報告 感情 } →

9. 「な」をつけて形容詞として使えるものを選び、文を作る練習

例 {○可能 能率 能力} → 電話で連絡することが可能だ。
→ 可能な方法を全部書く。

{ 大事 大学 重大 }

{ 正月 正直 公正 }

第5課 形声文字の音符

10. 漢字を見て、音を表す部分（音符）を見つける練習

例 { 何 河 歌 } → 可 カ

{ 紹 招 昭 } →

{ 忙 忘 望 } →

11. 漢字を、よく使われる漢字熟語で説明する練習

例 協 : 「きょうりょく (協力)」の「きょう」

告 : 「ほうこく (報告)」の「こく」

験 : 「しけん (試験)」の「けん」

進 : 「しんぱ (進歩)」の「しん」(「すす (進) む」のように訓読みがよく使われる場合は、それでも良い。)

12. 音符による仲間の漢字を見つけて書く練習

例 其の仲間:
(キ)

「きそ」「きげん」「こっき」

兎の仲間:
(ケン)

「しけん」「けんさ」「きけん」

「文型文法Ⅰ・Ⅱ」で使用中のテキスト各課の本文から、その文脈でキーワードになっている語彙を選んで表5のように学習漢字を決めた。しかし、課によって配当漢字数にばらつきがあること、学習漢字に意味的な偏りがあるのではないか、などの疑問も残っている。そのため、学習漢字に指定したもののうち教育漢字に含まれないものについては、書くことまでは要求せず、読めればよいとするなどの措置をとった。

表5 「文型文法Ⅰ・Ⅱ」テキストと「漢字Ⅱ」教材の学習漢字対照表

「文型文法Ⅰ・Ⅱ」		テキスト	「漢字Ⅱ」教材	
課	トピック	表現機能	学習方法	学習漢字 * ()は初級漢字
第1課	自己紹介	専門・趣味・性格	対話・仲間語	(自)己紹介(出)身専攻項(目)興(味)趣(味)(自)信(性)格経(験)責任積極(的)面(接)理(由)(結)果(連)想(自)然皆 22字
第2課	調査報告	文体・項目・結果		
第3課	新聞記事	原因・理由	訓読み・音読み	守述預望珍寂恥(原)因帯(火)災壁際(高)価希(望)提案(友)達(日)常真剣 20字
第4課	父さんの休日	希望・意見・提案		
第5課	電話お断わり	目的・意思	漢字熟語の構造	意(志)(有)効(知)識能率(上)司(指)示企業(出)版営(業)略各階必(要)情報 17字
第6課	ガン告知	推量・伝聞・使役	漢字熟語の用法-1	告(知)推量支(配)種類(家)族周囲(人生)観(医)師患(者) 12字
第7課	地震の心得	伝聞・引用・命令	漢字熟語の用法-2	(地)震(住)民(家)具被害(教)訓(対)策危険(指)導(点)検避(難)協(力)確認防(止) 16字
第8課	女性の生き方	必要・義務	形声文字の音符-1	義務職(業)(育)児(家)庭役(割)傾(向)就(職)関(係)賛(成)主(参)(加)(転)勤(分)担 14字
第9課	内開き?外開き?	条件	形声文字の音符-2	条件(内)側(公)団玄(関)欧(米)(外)敵(原)型(生)命基礎応(答)統(一)(建)築 14字

以上のような「漢字Ⅱ」クラスでの指導内容について、クラス修了時にアンケート調査を行った。最後までクラスに出席して期末試験を受けたのは、中国・台湾7名、韓国2名、非漢字圏5名の計14名であった。下のa～iの指導内容の中で最も役に立ったと思うことには1、次は2、3、…というふうに番号をつけてもらい、役に立たなかったと思うことには何も書かないように指示した。

- () a. 初級で習った漢字を復習したこと
- () b. 新しい漢字をたくさん習ったこと
- () c. 漢字の部首について習ったこと
- () d. 反対の意味のことばや対になることばを練習したこと
- () e. 漢字の音読みと訓読みを練習したこと
- () f. 漢字熟語の構造について習ったこと
- () g. 漢字熟語の用法について習ったこと
- () h. 漢字の音符について習ったこと
- () i. 漢字を、よく使われる熟語で説明する練習をしたこと

一番評価が高かったものを10とし、上から順に9～2という点数に換算して、あまり役に立たなかったというものは0とすると、表6のような結果になった。

表6 1996年前期「漢字Ⅱ」クラスにおける指導内容評価

出身	中国・台湾							韓 国		非漢字圏				平均			
指導内容	a	初級の復習	2	6	3	9	8	0	6	10	9	2	10	8	2	10	6.1
b	新しい漢字	10	10	10	7	9	0	10	4	9	4	10	9	3	9	7.4	
c	部 首	8	2	8	0	7	0	5	3	9	7	10	10	10	10	6.4	
d	対 義 語	6	4	7	6	6	5	9	5	10	5	10	7	7	9	6.9	
e	音 訓	5	8	9	10	10	10	0	9	10	6	10	7	4	9	7.6	
f	熟語の構造	7	3	2	0	5	8	0	8	10	10	10	7	8	10	6.3	
g	熟語の用法	4	7	6	0	4	9	8	2	9	9	10	7	6	10	6.5	
h	音 符	9	5	4	0	2	7	7	7	10	8	10	7	9	10	6.8	
i	熟語で説明	3	9	5	8	3	6	4	6	10	3	10	7	5	9	6.3	
人 数		7名							2名		5名						

a～iの項目のうち、aとbは特に指導内容・方法と言うほどのことではないので、c～iについての学習者の評価を中心にしてみると、全体的に最も多くの学習者が役に立ったとしているのは、「e 漢字の音読みと訓読みの練習」であり、特に漢字圏の学習者からの評価（平均7.9）が高かった。中国・台湾の学習者からの自由記述に「以前は漢字の読み方が一番むずかしかった。今、漢字の読みのルールがだんだんわかってきて、うれしい。このクラスのやり方はいいと思う。」、韓国の学習者からの記述に「私の場合は漢字の読み方が私の国と違うからむずかしかった。特に1字だけで読むとき（訓読み）、はじめての読み方が多かった。」という評価が見られた。

非漢字圏学習者の回答に特徴的だったのは、総じてどの指導方法も漢字圏学習者に比べると評価が高かったことであるが、中でも「c 部首について習ったこと」（平均9.4）や「h 音符について習ったこと」（平均8.8）、「f 漢字熟語の構造について習ったこと」（平均9.0）の評価が高かった。漢字圏学習者においては、出身別による違いよりも、個人差の方が目立つ結果となった。

4. まとめと今後の課題

今回のアンケート調査はまだ予備調査の段階であり、調査項目も全てを網羅しているとはいえない。今後、さらに調査項目を精選し、質問形式を吟味した上で、より多くの外国人学習者のデータを集めることが必要となってこよう。ただ、今回の調査からもわかるように、外国人学習者の実践していると意識している漢字学習の方法は予想外にオーソドックスなものが多く、特に中国・台湾の学習者は韓国や非漢字圏の学習者に比べて、学習方法自体を意識化することが少ないようである。漢字指導の授業を通して、学習者が自らの学習方法を意識し、弱点を克服する意欲を持つことが効果的な漢字学習につながるのではないかと考えている。

また、今学期の「漢字Ⅱ」のクラスで学習漢字および学習漢字語彙として選択されたものは、「文型文法Ⅰ・Ⅱ」で使用中のテキストに出てきたものから随時選ぶという形だったため、必ずし

も一般的な使用頻度の面から吟味されたものではなかった。その点について学習者からの批判は聞かれなかったが、初中級のレベルで教えるべき漢字及び漢字語彙に関する定量的な調査ももちろん重要なことであろう。今後の課題としたい。

注

- (1) 筑波大学留学生センターの日本語補講コースにおける技能別漢字クラスの位置づけと、各クラスのレベルは、以下のようになっている。

教 員 研 修	教員研修生対象、初級総合日本語（１年）コース					
中 級 入 門 Ⅰ	短期留学生対象、初級前半総合日本語（半年）コース					
中 級 入 門 Ⅱ	一般留学生対象、初級後半総合日本語（半年）コース					
技能別クラス	一般留学生対象、中・上級技能別日本語（半年）コース					
易 ↑ ↑ ↑ ↓ ↓ ↓ ↓ 難	文法Ⅰ	会話Ⅰ-1	聴解Ⅰ	読解Ⅰ	作文Ⅰ-1	漢字Ⅰ-1
		会話Ⅰ-2			作文Ⅰ-2	漢字Ⅰ-2
	文法Ⅱ	会話Ⅱ	聴解Ⅱ	読解Ⅱ	作文Ⅱ	漢字Ⅱ
	文法Ⅲ	会話Ⅲ	聴解Ⅲ	読解Ⅲ	作文Ⅲ	漢字Ⅲ
	文法Ⅳ	会話Ⅳ	聴解Ⅳ	読解Ⅳ	作文Ⅳ	漢字Ⅳ

*文法クラスは、各レベルとも週３コマ（75分授業）

他の技能クラスは、週１コマずつ。会話と漢字のⅠレベルは、さらに２分されている。

レベル 漢字Ⅰ-1：初級漢字100～150字程度の既習者（主に非漢字圏）対象。

テキストは『Basic Kanji Book』vol. 1

漢字Ⅰ-2：初級漢字150～250字程度の既習者（主に漢字圏）対象。

テキストは『Basic Kanji Book』vol. 2

漢字Ⅱ：初級漢字300字修了程度の既習者（漢字圏・非漢字圏混合）対象。

テキストは自作プリント教材

漢字Ⅲ：初級漢字500字修了程度の既習者（漢字圏・非漢字圏混合）対象。

テキストは『Intermediate Kanji Book』vol. 1 前半

漢字Ⅳ：中級漢字も含めて700～800字程度の既習者（漢字圏・非漢字圏混合）対象。

テキストは『Intermediate Kanji Book』vol. 1 後半

- (2) 初級で既習される文法項目及び中級で学習されるべき文法項目については、市川保子（1995）にリストがあるので参照されたい。
- (3) 国際交流基金と日本国際教育協会が主催している日本語能力試験のシラバスでは、外国人学習者の文字・語彙力のレベルを次のように設定しており、ここでいう「初中級」とは、総合的な日本語能力のレベルとしては3級と2級の中間段階で、漢字力は3級程度の学習者を想定している。
- 4級：初歩的な漢字100字程度・語彙800語程度 (150時間程度の日本語学習)
- 3級：基本的な漢字300字程度・語彙1,500語程度 (300時間程度の日本語学習)
- 2級：やや高度な漢字1,000字程度・語彙6,000語程度 (600時間程度の日本語学習)
- 1級：高度な漢字2,000字程度・語彙10,000語程度 (900時間程度の日本語学習)
- (4) 実施したアンケートの調査用紙を「資料」として添付する。
- (5) このレベルの中国の学習者で、既習漢字が3,000字と答えた者が1名、5,000字と答えた者が1名いたが、明らかに母語における漢字学習と混同していると思われるので、「その他」とした。
- (6) 具体的な選択肢の内容と設問については、「資料」参照のこと。
- (7) 初級の漢字テキスト『Basic Kanji Book』では、1画ずつ漢字の筆順を示したが、この「漢字Ⅱ」の教材では、学習者がすでに知っていると思われる構成要素についてはそのまま塊として筆順を示し、むしろ字形の構造的性に注目させるように意図した。

例	能	𠂔	育	能	能						
---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

参考文献

1. Foerster, Andreas & Tamura, Naoko (1994) *Kanji ABC : A Systematic Approach to Japanese Characters*, Charles E. Tuttle Company
2. Heisig, James W. (1977) *Remembering the Kanji* : vol. 1～vol. 3, Nippon Shuppan Boueki
3. Pye, Michael (1984) *The Study of Kanji*, Hokuseido Press
4. 市川保子 (1995) 「技能別クラスにおける文法シラバス・リスト作成の一試案」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』10：1-18
5. 加納千恵子 (1994) 「漢字教育のためのシラバス案」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』9：41-50
6. 酒井順子 (1994) 「認知科学からみた漢字教育へのアプローチ——学生の自立的学習を目指した四段階の“記憶法”による実証的漢字指導の試み——」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』20：
7. 高木裕子 (1993) 「非漢字系日本語学習者に対する漢字指導——パターン認識能力を活かした漢字指導とその問題点」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』68

8. 武部良明 (1993)『漢字はむずかしくない』アルク

9. トリーニ・アルド (1992)「非漢字系学習者のための入門期における漢字学習指導の一考察」
『世界の日本語教育』2: 65-76

本研究の一部は、平成 8 年度文部省科学研究費補助金による重点領域研究(2)「漢字テスト情報データベース構築のための研究」(課題番号: 08207203、研究代表者: 加納千恵子) 及び基盤研究 (C) (2)「コンピュータ支援による外国人学習者のための漢字用法練習プログラムの開発」(課題番号: 08680315、研究代表者: 加納千恵子) からの助成を受けている。

かんじがくしゅう かん
漢字学習に関するアンケート

くに 氏名

1. 漢字学習歴について About your Kanji learning history

a. いま まででどのぐらい漢字をべんきょうしましたか。

How many Kanji did you study?

1. 100字ぐらい 2. 200字ぐらい 3. 300字ぐらい
4. 500字ぐらい 5. 1000字ぐらい 6. 1500字ぐらい
7. 2000字ぐらい 8. その他：() 字ぐらい

b. どのぐらいのきかん、期間、漢字をべんきょうしましたか。

How long did you study Kanji?

1. 3か月以下 2. 半年ぐらい 3. 1年ぐらい
4. 1年半ぐらい 5. 2年ぐらい 6. 3年ぐらい
7. その他：() ぐらい

c. どんなテキストを使つて漢字を勉強しましたか。

What kind of textbook did you use for learning Kanji?

1. 日本語の教科書：名前 ()
Japanese language textbook:
2. 漢字の本や辞書：名前 ()
Kaji book and dictionary
3. 特にテキストは使わなかった。新聞や本などを読んで覚えた。
No special textbook. I read newspapers, books, etc. for learning Kanji.
4. その他：()

2. 漢字学習の方法 Methods of learning Kanji

- a. 今、どんなやり方で漢字を勉強していますか。(いくつか○をつけてもいいです。特に、よいと思う方法があったら、◎をつけてください。)

In what way are you studying Kanji now? (You can put ○ on more than one. Please put ◎ on what you think specially good method.)

1. テキストに出てくる順番に覚える。
I memorize Kanji following the order in the textbook.
2. 同じ部首の漢字や、形が似ている漢字を、まとめて覚える。
I try to memorize a group of kanji which have the same radical and kanji of the similar shape, etc.
3. 読んでいる文章に知らない漢字があったら、辞書を調べて、覚える。
When I find the unknown Kanji in the text, I look them up in the dictionary and memorize them.
4. 習った漢字や調べた漢字を自分のノートに整理して覚える。
I write the Kanji which I learned or I looked up in the dictionary in my notebook to memorize.
5. 漢字を覚えるために、字源の話や記憶のためのストーリーを使う。
I use story of the origin of Kanji or I make a story for remembering Kanji.
6. かならず熟語や例文といっしょに覚える。
I memorize Kanji always in the form of Kanji compounds and also in the sentences.
7. 何回も手で書いて覚える。
I learn Kanji by writing with hand many times.
8. 何回も読んで覚える。
I learn Kanji by reading many times.
9. 漢字カードを作ったり、部屋に漢字リストを貼ったり工夫している。
I think out many different ways of learning; making Kanji cards, making a list of Kanji to be put on the wall of the room, etc.
10. その他：()
Others

- b. 今、どんな辞書を使っていますか。

・読めない漢字があるとき

1. 日本人用の漢和辞典：名前 ()
Kanji-Japanese dictionaries made for Japanese people
2. 外国人用の漢英辞典など：例 Nelson, Hadamitzky, Halpen Jack, etc.
名前 ()
Kanji-English dictionaries made for foreign people
3. 英和辞典、中日辞典、韓日辞典など
English-Japanese, Chinese-Japanese, Korean-Japanese dictionaries
4. 電子辞書：Wordtank, etc.
Electric dictionary
5. 辞書はあまり引かない。日本人に読み方を聞く。
I don't use dictionary so often. I ask to the Japanese people.
6. その他：()

・書けない漢字があるとき

1. 日本人用の漢和辞典：名前 ()
Kanji-Japanese dictionaries made for Japanese people
2. 外国人用の漢英辞典など：例 Nelson, Hadamitzky, Halpen Jack, etc.
名前 ()
Kanji-English dictionaries made for foreign people
3. 和英辞典、日中辞典、日韓辞典など
Japanese-English, Japanese-Chinese, Japanese-Korean dictionaries
4. 電子辞書：Wordtank, etc.
5. 辞書はあまり引かない。日本人に書き方を聞く。
I don't use dictionary so often. I ask to the Japanese people.
6. その他： ()

3. 漢字学習の目標 Goal and objectives of learning Kanji

a. 今、あなたが弱いと思うのはどんな点ですか。What is your weak points?

1. 漢字を書くこと Writing Kanji
2. 音読みや訓読みを覚えること Remembering ON-readings and KUN-readings
3. 漢字熟語の文中での使い方を覚えること
Remembering Kanji-compound words and their usages in the sentences
4. 一度覚えた漢字を忘れないようにすること
Keeping Kanji in one's brain and never forget
5. その他： ()

b. これからの漢字学習の目標は何ですか。What is your goal / objectives?

1. 自分の弱点をなくすこと To conquer my weak points
2. とにかく漢字を1000字ぐらいマスターすること
To master 1,000 characters
3. とにかく漢字を2000字ぐらいマスターすること
To master 2,000 characters
4. 普通の日本語の文章が速く読めるようになること
To be able to read fast in Japanese
5. 日本人と同じように文章が書けるようになること
To be able to write sentences in Japanese
6. その他： ()